

(別紙 12)

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	特定非営利活動法人あらた そよ風クラブ
実習期間	平成 30年 3月 19日 ～ 平成 30年 3月 27日
学生氏名	長澤 誠
実習プログラム	<p>1 日目</p> <p>8:50 打ち合わせ、職員・子ども達と顔合わせ</p> <p>10:00 おちゃタイム 自由遊び</p> <p>10:30 トイレタイム ↓</p> <p>11:00 子どもたちの昼食の援助</p> <p>12:00 休憩</p> <p>13:30 ドライブ</p> <p>15:00 おやつ・随時帰宅 自由遊び</p> <p>17:00 日誌書き ↓</p> <p>2～4 日目</p> <p>8:30 自由遊び</p> <p>10:00 おちゃタイム</p> <p>11:00 子ども達の昼食の助</p> <p>12:00 休憩</p> <p>13:00 自由遊び</p> <p>13:30 ドライブ</p> <p>15:00 おやつ・随時帰宅</p> <p>17:00 日誌書き</p>
学び・気づき (300 字程度)	<p>今回の実習で学んだことは、障害のある子どもは警戒心やこだわりが強いという事とそよ風クラブ所長さんの「障害があるからといってなんでも許されるというわけではない、障がいの有無を問わず反社会的行為はやめさせることが必要である」という事です。私はそれまで障がいを持つ子どもが反社会的行為（危険・禁止行為）をした際は「まあ障がいがあるし、子どもだし」と考えていました。しかし、障がいを持つ子どももいずれは大人になります。そういった子どもが大人になってから苦労しないように子どもの早いうちからやめさせることでその子ども自身の負担も小さくなるということを学びました。</p>

<p>今後に向けた 抱負 (200字程度)</p>	<p>今回の実習では、どのように子どもと接していいのか、どこまで踏み込んでいいのかが分からないのが大きな問題でした。子どもと接する中で「愛着関係」というものは必ず必要となってきます。この愛着関係を子どもと築くのは簡単ではなく、警戒心が健常児よりも強いとなると余計に愛着関係の構築の難しさを考えさせられました。保育士さんから子ども一人一人の特徴を教えてもらい、実習中に子どもたちと少しずつ遊べるようにはなりましたが、自分にとって関わりやすい子どもと関わりづらい子どもが出てくるようになりました。関わりやすい子どもは、子どもの方から手を引いたり何かを訴えかけてきますが、そうでない子どもは私の方からアクションを起こさないと関わることができず、実習中は関わりやすい子どもと過ごす時間が多かったです。その為関わりづらい子どもとの接する機会が極端に少ないままで終わってしまったのが今回の実習での解決できなかった課題だと考えます。その為今後は自分にとって関わりづらい子どもや大人とも接するという事を意識していき、人との関わりを大切にしたいと考えます。</p>
<p>インターンシップをして気づいた、実習先の魅力 (300字)</p>	<p>今回そよ風クラブさんで実習をさせて頂き、職員の皆様が子ども達一人一人との関わりを大切にしているという事を感じました。大切にするとといっても甘やかすだけではなく、反社会的行為(危険・禁止行為)をした際は注意し、それをやめさせるという事も含まれます。また私が子ども達との関わり方がわからない際は丁寧に子ども一人一人の特徴を教えてくださいました。しこれは日頃から子ども達との関わりを大切にし、真剣に向き合わないと私のような実習生にアドバイスできないと考えます。そのためそよ風クラブさんの魅力は子ども一人一人と真剣に向き合い、関わり合いを大切にしている所だと感じました。</p>
<p>写真(1~3点)</p>	<div data-bbox="389 1216 1248 1854" data-label="Image"> </div> <p>そよ風クラブ(保育室)</p> <p>ここで子ども達が自由遊び、昼食といった一日の時間を過ごします。</p>